

鉄道線 令和4年度上期(4~9月)のご報告

令和4年11月7日(月)

北陸鉄道株式会社

< 目次 >

- 1 第1回及び第2回法定協議会でお伝えしたこと
- 2 令和4年度上期の業績
- 3 各路線の現状
- 4 鉄道事業の持続性について
- 5 利用促進策

1 第1回及び第2回法定協議会でお伝えしたこと

～当社は、利潤のみを追求せず「地域の発展に貢献し、人々の生活を豊かにする」ことを目指しています～

第1回法定協議会(令和4年5月26日)

- 石川線は、大量輸送交通機関としての鉄道の特性を発揮しており、自動車運転免許を所有しない地域住民等の移動手段の確保のためにも必要です。
- バス化は道路混雑や定時性低下に伴う混乱が生じ、自家用車利用が促進されると考えます。
- 鉄道は、沿線エリアと金沢方面間の速達性や定時性をはじめ、地域間の結びつきといった地域便益の維持向上に欠かせません。
- コロナ感染拡大で内部補助が消失したため、現行スキームによる持続的運行が困難な状況となりました。
- 安全運行に関わる設備面の維持管理を「公」にお願いし、「当社」がサービス向上に専念する上下分離方式による運営が最も持続性があると考えます。

第2回法定協議会(令和4年8月5日)

- 上下分離方式は、浅野川線及び石川線両線一体でのご検討をお願いします。
- 他の交通モードへの転換は長い工期が必要なため、代替輸送による交通混乱(定時性や速達性の著しい低下)が発生し、公共交通の利用者離れだけでなく、これまで鉄道を利用してこなかった自家用車利用者にまで影響が及ぶものと危惧します。
- 担い手不足や高齢化社会(免許返納制度の浸透)の進展など、今後の社会問題に対応できる交通モードとして鉄道システムが既に存在しています。これらの問題解決に貢献できる鉄道を無くすことは、更なるマイカー偏重型社会に繋がるものと危惧します。

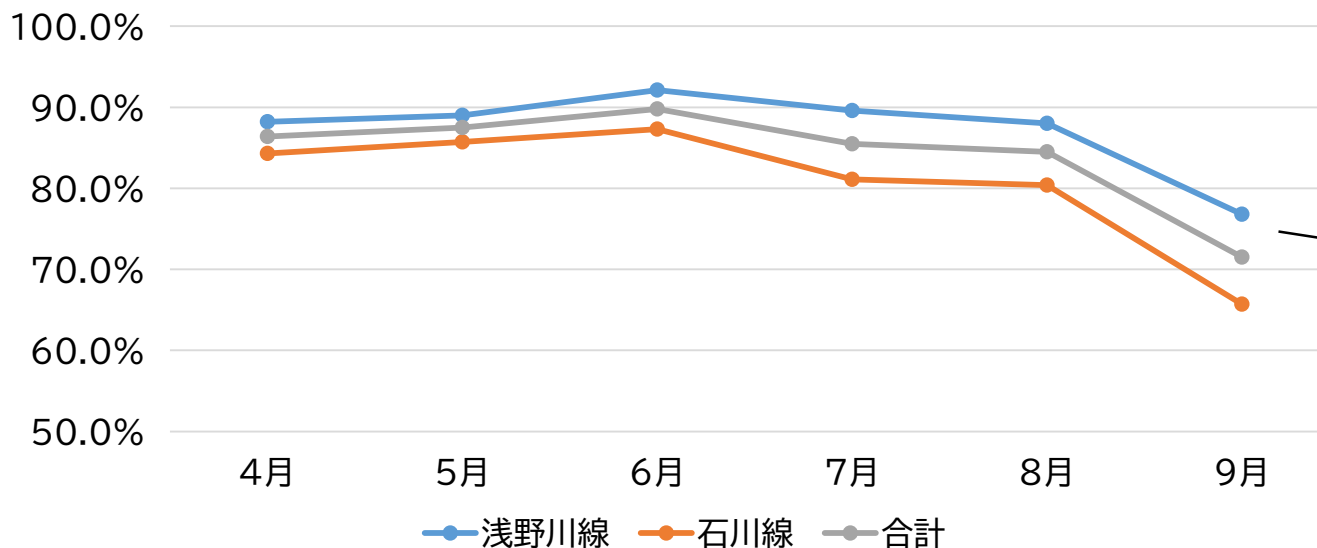
2 令和4年度上期の業績

(1)線別収支見込(概算速報)

	令和4年度上半期	前期比
浅野川線	△19,000千円	+7,000千円
石川線	△58,000千円	+1,000千円
合計	△76,000千円	+8,000千円

→収入の回復はあったものの、電力料や修繕経費等の増加により、収支改善には至っていない。

(2)回復率の推移(令和元年同月収入対比)



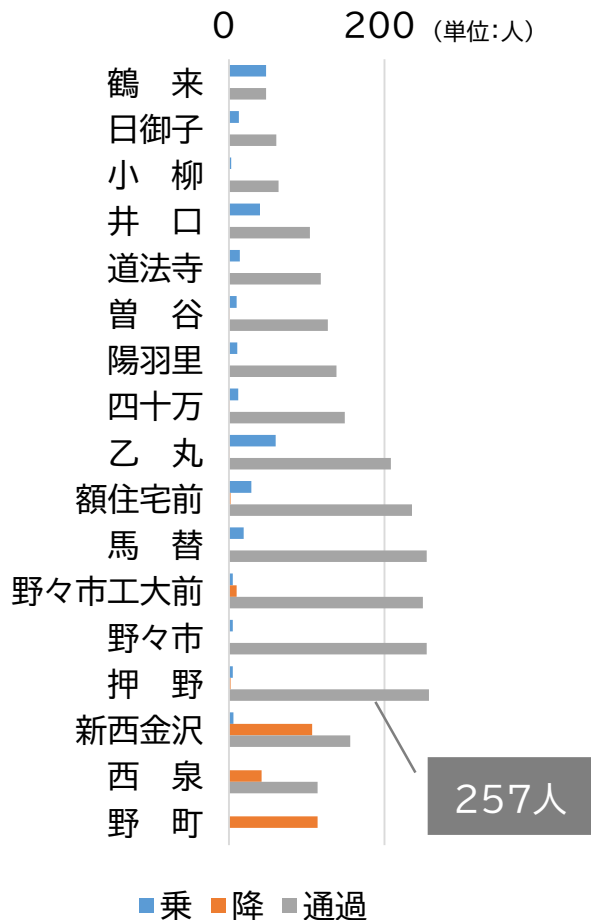
9月の落ち込みは、令和元年10月の運賃改定前の駆け込み需要増によるものと考えられます。

→コロナ前比較では回復率84%前後にとどまり、特に石川線の回復が鈍い。

[石川線乗降量調査] ※調査日:令和4年5月13日(金)

●最混雑列車

鶴来7:20発普通野町行き



●朝ラッシュ上り3本でみると…

鶴来駅発	最混雑時の乗車人数	バス代替で想定される台数
6:59	165人	3台
7:20	257人	5台
7:40	166人	3台

利用者数上り約600人

バス代替の場合、要員繰りを考慮すると運転士は15人必要

●バス運転士不足の現状(令和4年9月末現在)

充足率87%、欠員約50人

- ・充足率90%を下回ると、要員繰りが厳しくなります。
- ・運転士の高齢化や働き方改革の進展等により、この先も充足率の大幅な改善が期待できません(全国的な動き)。

3 各路線の現状

(1)石川線

ア 道法寺変電所が故障停止中



道法寺変電所(白山市道法寺町)の故障について

【故障の内容】

- 過電流が生じた際、鉄道施設を保護するための「直流遮断器」が老朽化のため故障。
- 直ちに大きな不具合は発生しないものの、冬場の電力消費状況によっては運行に影響を及ぼす可能性があります。

【対応方法】

- 老朽化施設のため、交換部品がなく修理方法を検討中です。
- この先、道法寺変電所と野々市変電所は廃止統合する計画があるため、延命措置にかかる修理費用が高額であることから慎重に検討を進めています。

※変電所

電力会社からの電力を鉄道用に変換し送電する施設で、電車に必要な不可欠な装置。現在、石川線には4カ所の変電所があります。

3 各路線の現状

イ 車両更新について

- 既存車両は60年近くが経過しており、車体全体にわたって劣化が激しく、交換部品がないため、廃車車両からの部品を流用して修理に充てています(同形式車両の廃車車両は全国的にも希少となりつつあります)。
- 新西金沢駅付近の急曲線に対応可能な中古車両がないため、新造車両の製造を計画しています。
- 令和7年度の車両更新に向け、来年度(同5年度)中に更新車両の発注を済ませる必要があります。

【石川線在籍車両】

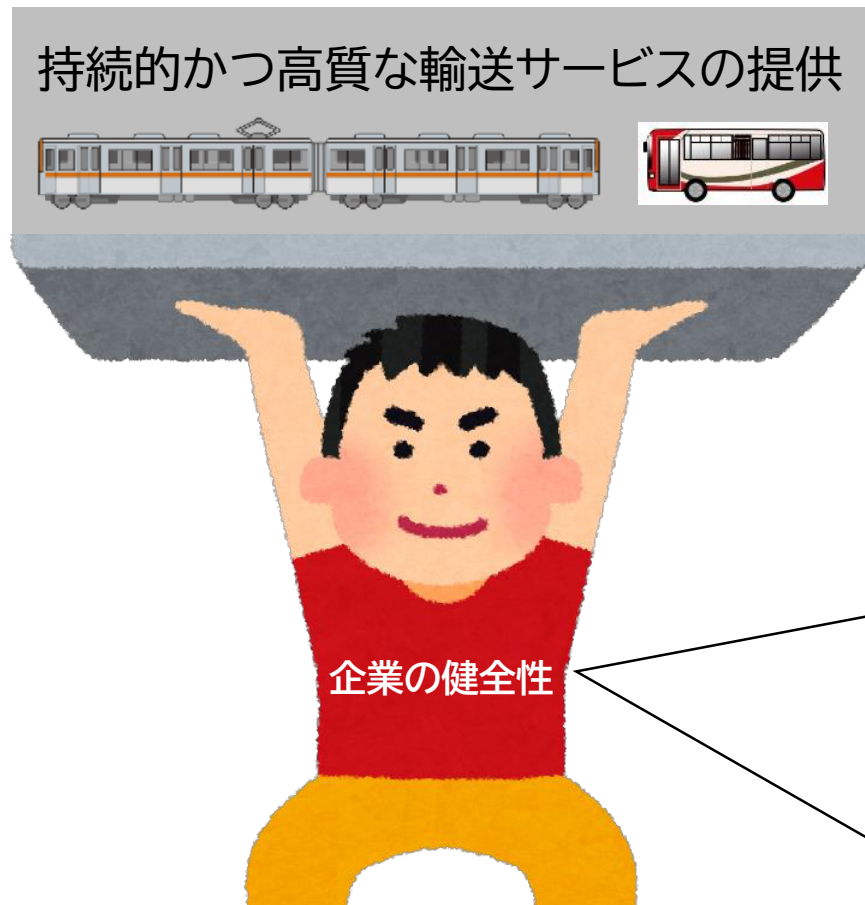
編成(2両組成)	製造年	導入年
7001編成(非冷房車)	1965年	1990年
7101編成	1966年	1990年
7102編成	1966年	1990年
7201編成	1964年	1990年
7202編成	1964年	1990年
7701編成	1967年	2006年

※このほか、主に除雪車両として使用している電気機関車(1938)及び軌道モーターカー(1981)が在籍しており、いずれも老朽化が進んでいます。

(2)浅野川線

- 5編成中、3編成が新型03系に更新されました。令和5年度中には全車両の更新を終える予定です。

4 鉄道事業の持続性について



【企業の健全性】

懸命な自助努力に取り組んでいますが、この先、企業としての健全性維持確保が見通せない状況にあります。

➤令和4年度上期は新型コロナ感染第7波の影響を受け、コロナ前と比較し、バス事業は回復率65.8%、鉄道事業は83.9%にとどまっています。特に高速バス及び貸切バス事業の落ち込みが大きく、厳しい事業環境が続いています。

➤安全性の維持・向上や、快適サービスの提供に関わる設備投資など、将来への投資を継続する必要があります。

※令和3年度以降、バス車両購入をはじめとした大型投資案件を凍結しており、この先サービスの低下が懸念されます。

➤従業員や株主様、取引企業様など、当社に関わる様々なステークホルダーに利益分配していくことも地域社会の一員としての民間企業の使命と考えます。

※令和3年度以降、賞与カット、ペアゼロ、退職金カット等を継続しているほか、同2年度以降は株主様(約4,000人)への配当も無配が続いています。

5 利用促進策

(1)実施した施策



①(石川線)電車+バスの割引企画デジタル乗車券の発売



②(浅野川線)元京王井の頭線車両の引退イベント



③(石川線)電車まつり ※同時開催「ご当地グルメ大会」でお帰り乗車券配布



④(石川線)沿線の小学生から、石川線を題材とした絵画を募集・展示



⑤(浅野川線)サマーキャンペーン景品として、浅電見学・体験会を実施



⑥(石川線)「おつuitachiマーケット」にあわせ、全駅サイクルトレイン対応



⑦(石川線)手取川ジオパークヘッドマーク掲出でPR活動に貢献



⑧(鉄道・バス)ほくてつフォトコンテストを開催。優秀作品等をカレンダーに採用



⑨(鉄道・バス)各種記念グッズを発売



⑩(石川線)石川線の利用促進を考える市民の会の皆さまによる清掃活動

5 利用促進策

(2)今後の計画(短期)

ア サブスク乗車券の造成

例えば・・・



イ 期間限定PRイベント

鉄道線を知っていただくためのイベント開催

ウ 既存企画の利用促進強化

・恋のしらやまさん



- 電車乗車券
- バス乗車券
- 和菓子券
- 辻占券

・鶴来まち歩きクーポン



- 電車乗車券
- お土産引換券
- バスまたはタクシー割引または自転車

・内灘まち歩きクーポン



- 電車乗車券
- バス乗車券
- お買物券
- 施設割引券

・ほくてつハイキング



- 参加費無料
- 参加者特典付き
- 内灘コース好評開催中 11/1~11/20